

理数系の能力を深めよ！

算数特化「りんご塾」の 人気が急上昇

独自のメソッドによる算数教育が特徴で、学習効果の高さも。

算

数が、生徒を集めている。幼児や小学生向けの個別指導の学習塾。1992年から開催されている、小中学生の子どもを対象とした算数・数学のイベント「算数オリンピック」での入賞を目標に掲げ授業を展開し、2023年は塾全体で金メダル4名、銀メダル6名、銅メダル18名と、例年受賞者を輩出している。

主宰者の田邊亨氏は大手国際特許事務所や学習塾を経て、現在は滋賀県彦根市でりんご塾を5教室運営し、首都圏などのFC（フランチャイズ）を含めると計53教室を展開。そのうち個別指導の「城南コベッツ」をはじめとする学習塾や乳幼児教育などを手がける城南進学研究社は最大のフランチャイジーとして36教室を運営し、約500名の子どもが通う。「事業



ポートフォリオを拡大する中、算数オリンピックのメダリストを輩出しているりんご塾の存在を知った」と振り返るのは、児童教育事業本部ディレクターの佐藤一典氏だ。

独自メソッドで伸ばす

同社教室の授業は1コマ80分。「パズルプリント」「算数テキスト

選び方のポイント

思考力が付く
受験の土台に



理数系に対する親の関心は高く、学校の授業レベル以上の環境が求められている

ト」「積み木」の3つのパートに分ける。「パズルプリントは謎解きに近い。最初から難しい問題だと拒否感を覚えるので、楽しませながら学習への姿勢を育む」。

ルールに基づき解く必要があるので文章を読み解く練習になり、思考力や発想力、ひらめきも身に付く。算数テキストは算数検定に対応し、積み木は実物を手に取りながら立方体を再現するなど、さまざまな課題に挑戦する。

「最初は2個から始め、最終的には7個使うなど、難易度が上がっていく仕組み」。背後が見えないブロックの数を数えるなど、中

学受験で求められる空間認識能力を養うのが狙いだ。「楽しく授業を終えてほしいとの田邊先生の考えが反映されている」。

小学1年から3年まで通うと中学受験の土台となる算数の力が育つ。気持ちに余裕を持ちながら、ほかの科目の勉強を進められるのも、中学受験対策になるという。学力面の向上も顕著で、今年4月に開催された算数検定の同社教室生徒の合格率は100%だった。

小学生対象で算数オリンピックにフォーカスした塾は全国でも珍しい。城南進学研究社の場合、小学校受験を終えた新入生の割合が最も多く、その後、6年間通う子どももいれば、中学受験に向け進学塾に切り替える生徒もいる。

「私立の生徒が約半数。小学受験後から入学まで、それ以降の学びにしたい、算数オリンピック目的で入塾する生徒もいるが、全員が出場を目指すのではない」

理数系の能力に対する関心は高く、学校の授業レベル以上の学習環境をりんご塾に求める親や子どもは少なくない。一方、近年は知識だけでなく思考力も問われる問題が増えている。算数に特化したながら多様な能力を伸ばし、何よりも諦めない力を育むことが、人気の背景だ。(ライター 大正谷成晴)